

令和6年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立白山小学校

1 本校の教育目標

社会の変化に適切に対応できる「生きる力」の育成を目指し、個性尊重という基本的な考え方にたって、一人一人の能力・個性に応じた教育を展開する。

校 訓

- やりぬく子ー生活のきまりを身につけ、実践する子
- 考える子ー正しい知識を求め、自ら学ぶ子
- 助け合う子ー善意と友愛に満ち、仲良くする子

2 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年では、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年では、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して書道科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とののかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（2）特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

（3）実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、（特別支援学級 単独でも実施）

（4）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。

それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を生かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根差して生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済み。

3 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十分に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスの取れた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十分に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	・ 前時の課題を振り返ったり、自分の目標を立てたりすることで、自分から進んで書道と向き合うことができた。 ・ 筆の持ち方や姿勢などの基本を理解し、身に付けることで思い通りの文字を書くことの楽しさを知った。 ・ 始筆・送筆・終筆に気をつけて一画一画を意識し、丁寧に文字を書くことができるようになった。 ・ 文字と文字との間や長さ、はらいの向きなど友だちとアドバイスし合うことでよりよいパフォーマンスになった。 ・ 硬筆だけでなく筆で書くことの楽しさを知ることができた。 ・ 毛筆の用具の使い方を正しく覚えることができた。 ・ 書を書くことによって、自由で自分らしい作品に仕上げることもできた。
教 員	・ 児童が自分から課題を見つけて、文字の美しさを意識して書に取り組むことができた。 ・ 毛筆に親しむことで文字の成り立ちにも興味をもつことができた。硬筆にも発展させて文化としての文字についても理解を深めさせたいと感じた。 ・ 書道科講師と連携して、授業での指導を行うことができた。 ・ 干支のイメージを膨らませながら書道作品に取り組むことで、児童の豊かな想像力や発想力を引き出すことができた。 ・ 書道科講師と連携して学習を進めることで毛筆との出会いがよいイメージとなった。

保護者	・ 低学年から水習字で筆使いに慣れることはよいと思う。 ・ 家庭でも書に対する興味を高めていくために、家庭や地域に対して書道科に関する情報を公開していくとよい。
-----	---

(3) 学校関係者評価

・ 書写として文字を書くだけでなく芸術的な書になっている。 ・ 子どもたちの発想が作品に生かされている。 ・ 春日井市の方針は理解できたので、今後も続けてほしい。

(4) 課題

・ 児童にとって書の作品づくりが楽しめるように考えたが、時間の制約や教材研究が追い付かなかった。計画的に進めていく必要を感じた。 ・ 授業改善を繰り返し、主体的に取り組ませるための指導方法を考えていく。
--